

花と緑

センターだより

2012・9
22号

花名 サルビア・レウカンサ

(公財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

世界のみどりのまちづくりムーブメント

第2回 「イギリスのオープンガーデンとグラウンドワーク協会」

林 まゆみ：淡路景観園芸学校 主任景観園芸専門員

イギリスは、多くの人々がガーデニングを愛好し、日々の暮らしの中に園芸活動が取り入れられており、オープンガーデンやグラウンドワーク発祥の地です。今回は、手づくりのオープンガーデンを開催されているペニーさんと、グラウンドワークに従事しておられるマイケルさんの二人の活動を紹介したいと思います。

オープンガーデン

イギリスのオープンガーデンの歴史は古く、その創設は1927年に遡ります。現在は、NGS（ナショナルガーデンスキーム）という組織で運営されており、基本的にはチャリティ目的です。NGSのホームページを開いてみると、大変充実しています。例えば、今日はサセックス州のどこでオープンガーデンをやっているかなどを一瞬のうちに検索でき、またその内容も詳細に知ることができます。(http://www.ngs.org.uk/) ペニーさんは、ロンドン郊外の小ぶりながら素敵なマナーハウスの住人です。熟年世代のご夫婦ですが、庭の手入れから、オープンガーデンの時に売る手づくりのグッズ、そしてロンドンのオープンガーデンの庭主とのネットワークづくりに日々いそしんでおられます。



ロンドン近郊のペニーさん宅のオープンガーデン

グラウンドワーク協会

これはサッチャー元首相が提唱したもので、地域の環境改善を、住民や行政、専門家が連携しながら展開していくものです。私がお会いしたマイケルさんはロンドン近郊のグラウンドワーク協会の事務所に勤務されています。ここでは、生物多様性に配慮した水辺の

改修や緑化による住環境の改善等、普段見過ごされがちなまちなかの環境改善に関わる活動を地道にされています。華やかなイングリッシュガーデンとは趣が異なりますが、イギリスの自然や環境、そして人々の暮らしに対する真摯な取り組みとして定着しています。



グラウンドワーク協会が生物多様性に配慮して改修した駅前の水辺



水辺の水質を改善するためのアシ群落の育成



庭園の緑化を通じたアパートの環境改善

ひょうごまちなみガーデンショーに 兵庫県下の農業高校が出展参加!!

「アグリハイスクールガーデン」 参加校の紹介

兵庫県下11校の農業高校が、第20回目の開催となるひょうごまちなみガーデンショーの新企画、「アグリハイスクールガーデン」に参加します。ガーデンを展示し、日頃の勉強成果を発表し、会場を盛り上げてもらいます。各校の横顔、出展にあたっての抱負などを紹介します。



県立有馬高校

所在地：三田市天神

創立：明治29年

学科：総合学科・人と自然科

アピール：「人と自然科」は、農業の学習を通して命の尊さを学び、よりよい環境づくりに貢献できるスペシャリストを育成しています。また普段から「楽しむ・育てる・創る」をモットーに学校生活を送り、時には地域住民の方々と一緒に授業を受けたりするなど、これまでの高校にはない試みにも取り組んでいます。

作品紹介：テーマは「里山の彩り」ベッドタウン化の進んだ一方で、有馬富士に代表される「緑豊かなわが街三田」をイメージさせるような和洋折衷の草花を中心にミニガーデンを制作したいと考えています。



▲20年間続いているJR三田駅前の花壇制作



▲自分たちが植栽した三田警察署前花壇

県立農業高校



▲校内での測量実習



▲東加古川駅前の花壇管理



▲小学校高等学校連携事業として、一緒に花壇制作

所在地：加古川市平岡町

創立：明治30年、明石市（現、明石公園内）に兵庫県簡易農学校として開校

学科：農業科・園芸科・動物科学科・食品科学科・農業環境工学科・造園科・生物工学科

アピール：本校は、創立115周年を迎える伝統校で、食と農、環境など、幅広い分野で活躍できる専門の知識や技能を習得することを目指しています。

今回の展示を担当する造園科は、庭園づくりの伝統技術を継承しつつ、都市緑化や都市公園整備、自然公園による環境保全などに関する知識・技術を身につけるため、学習しています。

作品紹介：今回の作庭では、日々の学習成果を生かし、高校生らしい作品を制作したいと思います。

県立播磨農業高校

所在地：加西市北条町
 創立：昭和41年
 学科：農業経営科・園芸科・畜産科
 アピール：県下で唯一の文部科学省指定農業経営者育成高等学校で、全寮制です。“郷土伝統文化継承クラブ”“馬術部”“サイエンス部”“乳牛クラブ”等のユニークなクラブ活動があります。約30haの敷地には、西日本最大の圃場面積を有し、恵まれた施設・設備で実物大の農業教育を実践しています。

作品介绍： “平静な日常”をテーマに心のエコについて授業や実習で学んだことを活かし、「エコガーデン」の中で表現していきたいと思います。



◀ヘデラの苗作り



▲花壇に使うベンチを制作

県立山崎高校

所在地：宍粟市山崎町
 創立：明治40年
 学科：普通科・生活創造科・森林環境科学科
 アピール：森林環境科学科では、演習林地で生産された木材を利用して、木工作品の制作や炭焼きなどの実習を行っています。また、地域の方々との交流を深めることを大切にし、生活創造科と連携して、雑木を利用して石窯でピザ作りを行ったりしながら、新しい山崎高校の在り方を検討しています。



製材実習▶



▲石窯を使ったピザ焼き実習

作品介绍：山崎高校がどんなところにあるのかを知って、是非来校していただきたいという気持ちで、森林環境科学科と生活創造科の生徒が力を合わせて制作しました。テーマは「宍粟森林王国物語」。スギ、ヒノキやケヤキなどの広葉樹や小屋などの小物作品を使います。

県立佐用高校

<国道179号線沿いの花壇手入れ>

所在地：佐用郡佐用町
 創立：明治39年佐用郡蚕糸伝習所として設立
 学科：普通科・農業科学科・家政科
 アピール：地域貢献を軸に、地域に根ざした農業教育を実践しています。とりわけ、設定科目「地域実践」では、地域に出かけ、また学校に招き、農業学習を通して地域との交流、貢献を図っています。

作品介绍：今回の出展にあたっては、2年次の科目「グリーンライフ」を活用し、生徒に作品を募りました。テーマは「さよう」。



▲マリーゴールドの管理



▲ミニ葉ボタンの定植

県立上郡高校

所在地：赤穂郡上郡町
創立：明治35年
学科：普通科・農業科・園芸科・農業土木科
アピール：農業関連学科は、年間を通じて非常に行事が多くあります。地元小学校とのサインリアの鉢上げ等の体験学習。幼稚園児が来校してのサツマイモの定植や収穫体験。PTA会員対象のジャムづくり講座や寄せ植え講座。また、各種イベントでの農産物販売等を行っています。授業でも民間の専門学校から講師を招き、測量の最新技術を学んだりしています。

作品介绍：テーマは「大航海」。自然の中で力強く生きていく植物を荒波を超えていくヨットで表現しました。



▲花壇の木枠に使う木材を切断



▲木枠に荒縄を巻く

県立但馬農業高校

所在地：養父市八鹿町
創立：昭和51年
学科：農業科・畜産科・生活科



▲トマト移植



▲シクラメンの温室栽培



▲梨の収穫

アピール：『汗をいとわず 命を尊び 日々高きを志す』を校訓に“額に汗して働くことのさわやかさを知る人、命あるものへの深い思いやりを持つ人、よりすぐれたものを追い求め続ける人”・・・この理念をもとに教育活動を推進しています。地域農業の発展のために農業後継者の育成と地域で活躍できる人材の育成を旨としています。

作品介绍：但馬の風景をイメージした作品に仕上げます。

県立篠山東雲高校

所在地：篠山市福住
創立：平成23年
学科：地域農業科（3年生は農学科）
アピール：県立篠山産業高校の分校から昨年独立しました。これまで地域と農業に貢献する「心豊かでたくましい人間の育成」をめざす農業高校として地域と共に歩んできましたが、今後もその篠山産業高校からの歴史と伝統を引き継ぎ、新たな取り組みにも挑戦しながら、生徒と教職員が一丸となり、県民や地域の期待に応える「小さくてもキラッと光る高校」づくりに邁進していきます。



▲近隣の老人ホームでの花壇制作

県立篠山産業高校

所在地：篠山市郡家

創立：昭和8年

学科：機械科・電気科・土木科・商業科・生活科

アピール：生活科は、県下でも唯一専用の農場を持っており、「種まきから食卓まで」をテーマに、農業・家庭・福祉の分野を学んでいます。特に篠山の特産物を利用した加工品の製造・販売は、地域活性化の原動力として評価されています。また農場で収穫した農産物も各機関と連携して販売し、喜ばれています。これからも篠山が元気になるように活動していきたいと思ひます。

作品紹介：篠山でたくさん栽培されているトマトを中心にベジタブルガーデンを出展します。



▲ブドウの収穫まで小学生と月1回交流



▲幼稚園児とサツマイモの栽培・収穫の交流



▲野菜や加工品の販売活動

県立氷上高校

所在地：丹波市春日町

創立：昭和22年

学科：営農科・食品加工科・生活科・商業科

アピール：野菜・草花・果樹・家畜等の栽培飼育管理をしている営農科、生産物を加工している食品加工科、農業をベースに福祉・保育等の学習を行う生活科の3学科が農業関連学科で、パイオニア精神をもち様々なことにチャレンジしています。その中でも2学年次に行われる就業体験実習では、北海道・長野・神鍋にて、実習先農家に泊まりこんで実践的な活動を行っています。今後は、3学科の強みを伸ばしつつその融合を目指し、地域に「あっ！」と言われる農業教育を目指します。

作品紹介：丹波の風景をイメージできる壮大なテーマで作成したいと思っています。ガーデニング初心者ですが、楽しみにしていただければと思います。



▲就業体験実



▲小学生との田植え交流

県立淡路高校

所在地：淡路市富島

創立：大正12年

学科：総合学科

アピール：本校の総合学科は、5つの系列に分かれていて、その中に農業関係の系列として、「花と緑と海のめぐみ系列」があり、地域農業に貢献する人材を「栽培加工」「環境創造」の2つのコースで育成しています。「栽培加工」コースでは、栽培から加工までの技術を学び、淡高ブランドの商品化を目指しています。「環境創造」コースでは、「公園立島淡路」のもと、校内スクールパーク構想を掲げ、校庭芝生化や癒しの空間作りに取り組んでいます。

作品紹介：ふるさと淡路を表現したいと思ひます。



▲ハボタン栽培



▲イチゴジャムの製造

グリーンメッセージ

暑い夏の爽やかイベント ～ap bank fes '12 Fund for Japan～

花と緑のまちづくりセンター長
(国営明石海峡公園センター長)

石原 憲一郎

8月4・5日の両日、淡路島国営明石海峡公園でap bank fes '12が開催されました。みなさんは、ap bankってご存じでしょうか？

ap bankは、音楽家 坂本龍一、Mr.Childrenの櫻井和壽、音楽家であり音楽プロデューサーの小林武史の3人が拠出した自己資金をもとに、2003年に設立された非営利組織で、環境、食、エネルギーをはじめとする持続可能な社会づくりのためのプロジェクトの支援や推進を行っています。

毎年、静岡県掛川市のつま恋でfesを行っていますが、本年は、阪神・淡路大震災の淡路島と東日本大震災の仙台を加え3カ所で開催し、被災地支援を加速するため、イベントの収益を全て被災地の復興支援に充てることになりました。

淡路島では、国営明石海峡公園のほぼ全域を利活用し、Mr.Children等多くのアーティストのライブはもちろん、環境保全や健康維持にメッセージ性の高いグッズや食品、また地元淡路島の特産品等を扱ったお店が各所に並び、さらに環境問題を考えるワークショップやミニトークなどが行われ、2日間はまるで環境博覧会のような雰囲気で大いに盛り上がりました。会場には、環境意識の高い若者などが2日間で約47,000人訪れ、楽しんでいました。

来園者の服装も、麦わらハットやコットン製品、草木染めのスカーフなど自然素材をベースにした明るいものが多く、ロハス(Lifestyles Of Health And Sustainability 環境問題や健康問題に意識が高いライフスタイル)時代の到来がひしひしと感じられました。



多くの出店に集う来園者

会場には、エコステーションが各所に設置され、ゴミの発生抑制(reduce)はもちろん、会場で飲

食に使用する皿やコップは、使用後は全て返却し再使用(reuse)、その他のゴミは、ドイツ並みに10種類の分別回収と再資源化(recycle)と徹底した取り組みを行っていました。



徹底したゴミ処理を行うエコステーション

また、ライブステージの照明の一部にはLEDを採用し、各テントの電源には、バイオディーゼル燃料を使用、さらに太陽光パネルを使った暑さ対策のミストシャワーなどなど、その徹底した取り組みに感心し、大変勉強になりました。

会場を見て感じたことは、まず、環境意識の高い若者が非常に多く存在することへの未来に向けた安心感と期待感、そして会場での各種の取り組みが、まちなかの日常の生活環境に普通に活かせるような「まちづくり」が重要であると改めて認識した2日間でした。

※会場の様子は、<http://fes.apbank.jp>参照。



ライブ風景

ほっと

●●● 相談員ニュース ●●●

緑の相談員 小椋 美由紀

秋の草花を楽しむ ～万葉人も愛したナデシコ、キキョウ、ハギ～

あきのの 秋の野に 咲きたる花を 指折り
 はな およびを
 かき数ふれば 七種の花
 ななくさ はな
 はぎ はな をばな 萩の花 尾花
 くずはな なでしこ はな 葛花 瞿麦の花
 をみなえし ふじはかま あさがお はな
 女郎花また藤袴 朝貌の花

山上憶良

万葉集は、今から二千年以上も前にまとめられた日本最古の歌集です。この中で万葉歌人が詠んだ植物は約百六十種類にも及びます。現代より植物がもっと身近にあったといえます。

山上憶良は、ハギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウの七つもの植物を一句に詠んでいます。おなじみの秋の七草です。

その中のナデシコ（瞿麦）、キキョウ（朝貌）、ハギ（萩）の育て方をご紹介しますと思います。秋の夜長に、万葉の人々が愛した植物をゆっくり眺めてみませんか。

ナデシコ (ナデシコ科 ナデシコ属 多年草)

芯の強さを秘めた日本女性を象徴する呼び名、女子サッカーでもおなじみです。可憐な容姿ですが、丈夫な植物です。万葉の時代から庭に植えて鑑賞していたそうです。



からっとした場所に自生する為、水はけを考慮して植えつけます。

間延びしやすいのですが、自然に伸ばして育て、風にゆれる姿を楽しみましょう。

夏は、風通しをよくし、蒸れを防ぎます。開花後は株を切り戻し、リフレッシュさせましょう。

キキョウ (キキョウ科 キキョウ属 多年草)



古くから、美術工芸品に描かれるなどなじみの深い名花です。

日当たりのよい身近な里山に自生しています。夏から秋にかけて青紫色のつぼみを次々とふくらませ、美しい花をみせてくれます。

日当たりと水はけのよい場所を選び、堆肥など有機物を十分すきこんで植えます。初夏に咲いた花は切り戻すと秋にも楽しむことができます。種まきは春、挿し芽は梅雨時に行います。

種まきは春、挿し芽は梅雨時に行います。

ハギ (マメ科 ハギ属 落葉低木)

万葉集の中の花を

詠んだ歌では、ハギが最も多く登場します。威勢のいい夏の姿は気持ちが良く、また秋の風になび



く花穂の美しさは秋の喜びを感じさせてくれます。

腐植質に富む肥沃な日当たりの良い場所に植え付けます。枝は切らないでおくこと徐々に伸びて相当大きくなるので、あまり丈を大きくしたくない時は、6月中旬に切り戻すと、再び伸びた新芽に花をつけます。

単植にして見事な大株に仕立てることもあります。

園芸相談コーナー

10:00~16:00

火曜日を除く毎日

Tel 078 (918) 2405

Fax 078 (919) 5186

写真や実物をご持参いただきますと、お話ししやすくなります。

ひょうごローズクラブ総会・記念講演会が開催されました!

6月16日(土)、雨に濡れて鮮やかに輝く木々の緑を真横に眺めながら、湊川神社・楠公会館で行われました。



総会での植村会長の挨拶



兵庫県下から集めた豪華なバラの展示に見とれる参加者



「夢の青いバラへの挑戦」をテーマに、青いバラ開発でのエピソードについてサントリービジネスエキスパート(株)の研究員、津田晋三さんにお話し頂きました。



美しくバラを咲かせるための意外な極意を楽しくお話くださった、兵庫県を代表するバラ専門家、前野義博さん(ひょうごローズクラブ理事)

これからのイベント情報

- | | | |
|-------|-----------|-------------------------|
| 研修旅行 | 10月24日(水) | 「おふさ観音バラまつり&檀原神宮参詣」 |
| 各種講習会 | 11月 7日(水) | 「バラを味わう!ローズビネガー&ティー」 |
| | 11月30日(金) | 「プリザーブドフラワーでクリスマス飾りを作る」 |
| | 2月中旬 | 「アロマ&隠れ家ランチ」 |
| | | 他にも各種剪定講習会等を開催いたします。 |

🌸 詳細は、ひょうごローズクラブ事務局まで (TEL078-918-2405)

県下の相談所紹介

第6回 🌸🌸🌸 加古川市日岡山公園育苗園

加古川市日岡山公園育苗園はJR加古川線日岡駅から東南東に500mほどに位置しており、昭和50年8月に市内の緑化推進の拠点としてつくられました。

加古川市では、市内に緑を増やす目的で、市民の結婚や出生の際に記念樹を配布しており、希望者には加古川市植樹祭で日岡山公園内に植樹をしてもらっていました。

(2009年からは権現総合公園に植樹しています。)

また、平成元年から緑化相談と園芸講習会を開始しました。毎月の花と緑の講習会の他にキッチンガーデン(野菜栽培教室)、ハーブ教室、草木染教室を行い、市民の皆様の花や緑への関心の高まりに応じています。

平成14年度からは市民参加の緑化を目指し、

花とみどりの街づくりボランティアの育成・支援するためのボランティア養成講座を開催しています。修了生は300名を超え、その多くがNPO法人加古川緑花クラブに所属し、JR加古川駅前や日岡山公園、それぞれの地域などの花壇の維持管理を担い、潤いのあるまちづくりに貢献しています。



ボランティア養成講座実習風景 左 ポット上げ 右 腐葉土作り

お問い合わせ 加古川市日岡山公園育苗園 〒675-0061 加古川市加古川町大野1682
 TEL:079-426-6443 FAX:079-426-1400
 開館 8時30分~17時15分 (土・日・祝日休み)
 緑化相談時間 9時~16時 毎週 月・水・金曜日(但し祝日等は休園)

花と緑のまちづくりセンターだより 22号

- 平成24年9月1日(年4回発行)
- 編集発行 公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会理事兼花と緑のまちづくりセンター長 石原 憲一郎
 〒673-0847 明石市明石公園1-27 花と緑のまちづくりセンター
 TEL:078(918)2405 FAX:078(919)5186 Eメール: info_midori@hyogopark.com